

# 九州運輸局メールマガジン

第416号 令和元年9月12日（木）

## 運輸安全だより（安全取組事例の紹介）

**トップダウンはもとより、乗務員が自分たちで討議して目標を決め、遂行するチーム活動を軸に、安全をマネジメントする仕組みを構築します**

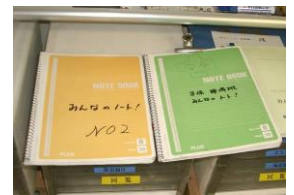
弊社では「キックオフ大会」と称して、会社の年間スローガンを乗務員が設定。設定に至るまでの経緯を全員が理解しているため、抽象的なものであっても、会社は修正を加えることはしません。あわせて、10名程度で小集団をつくり、以下の取組も実施しています。

### ■ 取組の具体的内容

- ①全社のスローガンと共に、チーム毎のスローガンも設定する。
- ②安全も含めた日常の気付きなどを記載する「みんなのノート」を乗務員の中で回覧し、記載する活動を実施。この活動は、事故が多発した時に乗務員が自発的に始めた。
- ③毎月19日を“一工夫×改善の日”と定め、「KAIZENシート」「ヒヤリ・ハットシート」を収集安全環境対策室が一人一人にコメントを記入して返却し、個別のフォローをすることでPDCAの手順に基づく改善活動を定着させて、提出率も高めている。
- ④点呼時に、「チームの無事故記録は何日ですか？」と質問することで、乗務員のチーム活動への関わり意識と、無事故への注意を喚起している。



チーム別スローガン



みんなのノート

### ■ 取組の効果

個人意識からチームによる仲間意識に変化、チームの一員としての安全、目標に貢献する意識へと変わりました。

また、安全・安心を心がける運転が、事故・燃料費削減に繋がり、その削減分を社員に還元するという発想のもと、社員満足充実による安全意識の向上が図られるようなコミュニケーション確保を創意工夫、この好循環の継続を目指しています。

省燃費運転の実践・浸透を図るために、社長自身が仕組みを構築し、帳票類等の作成、改定を繰り返し実施しました。毎年燃費の改善を果たしているため、乗務員から「これ以上は難しい。」との意見が出ましたが、共に常に上を目指し、仕組みを改善して、社長自身も省燃費運動を追随指導することで10年連続燃費向上を達成するとともに、省燃費運動の実践で前方の状況確認意識が高まり、また車間距離が自然と空くことで運転の余裕が生まれ、事故も減少しました。

### ■ 取組の具体的内容

- ①軽量化対策として、燃料は満タンにせず、その日の分だけ。
- ②巡行速度 80 km/h → 75 km/h（気持ち 5 km/h 遅く走る）
- ③「人間デジタコ」と呼ぶ、乗務員による燃費・車両整備の記録。特に整備記録の記入により整備と燃費の関係が認識でき、燃費改善への意識が向上。

### ■ 取組の効果

省燃費運転を極限まで追求する取組で、10年連続燃費向上を達成。前方の状況確認意識（車間距離等）が高まり、事故の減少も実現しました。

